

2011.05.28

アフター4は昭和の風景!? やる気も出るサマータイム～スウェーデン編

 担当:
Rica

スウェーデンでは他のヨーロッパ諸国同様3月の終わりの日曜日から10月の終わりの日曜日までがサマータイムとなります。サマータイムになる頃から日も長くなり、ちょうどミッドサマー6月半ばまでが一年で一番日が長くなります。



ちなみに、夜明けは明け方3時そして日の入りはストックホルムで22時。ストックホルムから北へ200kmも行くと24時すぎでも日本の夕方16時くらいの感じです。ちょっと夜更かしでもすると夜明けを知らせる鳥の鳴き声とともに寝るという事になります。

スウェーデンの夏は、人の性格も変えるほど冬とのコントラストがはっきりしています。夏場のスウェーデン人の陽気さには驚かされます。

北ヨーロッパでの夏時間の考え方は『いかに無駄なパワーを減らし、効率の良い労働へ遂行するか』というのが根底にあると言えます。というのも、冬は夜明けが朝の8時過ぎですので、7時に起きて仕事に行く人たちは日の出ていない暗い時間に起きて活動を開始しなければなりません。それは無駄なエネルギーを使うこと。冬時間の1時間を遅らせることにより、夜明けとともに目覚めという訳です。

今、日本でサマータイムの導入が検討されているというニュースを聞いた日本に住んだ事のあるスウェーデン人は、「日本ではサマータイムとウインタータイムを区別しても意味をなさない気がする。なぜかという夏は夕方19時には暗くなるし、冬は6時もしくは7時にはちゃんと明るくなる。自分たちが考える人の体のメカニズムと経済の活性化とは異なる気がする」と言います。ふむ、なるほどな、と思います。そう言えば昔またその昔、日本でもサマータイムの導入があったと聞いた事があります。ちょうど私の母が若い頃。経験によると「とにかく夏は蒸し暑いから、一日が長い気がして疲れた」と言います。

1年近く暮らした事のある地中海の島、マルタ島とシチリア島では、日本と同じ様に湿気があり蒸し暑いのですがサマータイムを導入していました。人々はどのように過ごしていたかと言いますと、『シエスタ』の導入があり、一番暑いお昼過ぎから16時まではお店も閉まり仕事も一時中断、お昼寝タイム。そして、涼しくなる16時過ぎからお店も開き、再び活動開始。なので、無駄な電力は必要ないんですね。一番暑い時間はガラガラ過ごすので仕事の為の無駄な冷房もいりませんし。利に叶ったサマータイムだなと思いました。所変われば.....ですね。

そして、プライベートの時間を大切にスウェーデン人にとっては、サマータイムは大変有意義なシステムといえます。とにかく彼らは残業などしません。一人でも残業をする仕事仲間でも居ようものなら、「自分たちにストレスを与える」と言って反感を買います。そして、スウェーデンの夏休みはヨーロッパ諸国ダントツの5週間！ 思う存分短い夏を楽しんでしまう訳です。辛い冬を乗り越える為にも必要なんですね。仕事はフレキシブルな人以外は16時に終わり。そして『アフター4』を楽しみます。

たとえば、40代前後の中流家庭の人たちはセーリングボートを持っています。スウェーデンの若大将たちです。そんなストックホルムレ(ストックホルム人)はちょっと『一杯引っ掛けないか?』と、言って自分のボートに乗り近所の岸にあるカフェバーにボートで乗り付けます。それが彼らにとってのステイタス。日本の若大将も顔負けです。ストックホルムは小さな島の寄り集まりなので、夏になるとそれぞれの島の水際にはボート停泊場のついたカフェバーがオープンします。

その他は自宅のお庭で日光浴ですね。ピキニ姿のスウェーデン美女の日光浴は夏の風物詩です。日本と違い健康的な小麦色の肌がカッコいいのです。とにかく家の中で過ごすより、外で過ごす事が多くなります。

先日、スウェーデンの新聞DN紙で『Ute som Innekänsla(ウーテ ソム インネシェンスラ)-外で室内に居るような気分』と言う特集が組まれていました。外でも家の中に居るような心地よい空間を、という内容です。外で夕食も食べますし、日が落ちるまで外で過ごすのでソファなども登場します。家庭のリビングルームがお庭にあると思っただけでいいかもしれないです。とにかく心地の良い生活です。

多分、冷房の無かった日本の昭和30&40年代の生活がスウェーデンにあるような気がします。東京の下町の夕涼み。まさにスウェーデンの夏の一般家庭の風景と重なります。おじさんや子供達が道端に長椅子を出してかき氷を食べたり、囲碁をしたり。冷房がなければ人は知恵を出し、心地よく過ごす為の方法を考えます。それが、人と人を結ぶコミュニケーションの場になったり、経済を活性化させたり、明日へのやる気に繋がるのかもしれないですね。そんなシンプルライフが今のスウェーデンにはあります。

さて、末筆になりましたが、現在(～5月31日まで)東京・新宿の伊勢丹5F・ダイニングテコールにて、「夏の食卓」をイメージした私の作品(テーブルウェア)を数々出品しています。私も急遽帰国し、売り場でご案内することになりました。お時間があれば、ぜひ遊びにいらしてください。皆さんにお会いできるのを楽しみにしております。



WRITER PROFILE

Rica

ファッションデザイナー。ジュニアシダのデザイナーを経て代官山でオートクチュールのドレスサロン経営。のちにマルタ共和国→シチリア島...と北へ北へと移り住み、現在スウェーデン在住。2009年夏より、オリジナルブランド『Rosenkrona』を立ち上げ、北欧と日本で活動中 (www.rosenkrona.com)。各国の手工芸、アンティーク、アルゼンチンタンゴ、ワイン&食、秘境の町&村めぐりなど興味は広範囲。